様式4

会議録

会議の名称	三芳東中学校　第2回学校運営協議会	
開催場所・日時	令和8年10月6日(火)　三芳東中学校　会議室　(開会)9:50　(閉会)11:25	
出席者人数	9名	
欠席者人数	3名	
議題	(1)地域・学校合同の避難訓練について (2)中学生が気軽にできるボランティアの実践の場を考える	
協議等要旨	協議結果	意見の概要
	これまでの協議や教職員合同研修会での協議を踏まえ、コミュニティ・スクールの「めざす人物像」を実現するため、3つの柱(3つの増＝他者との交流の増、協力・協調、人のためになることを考え実践する機会を増、自己有用感を得られる体験を増)を設定した。 これを実施するための具体的な手立てとして、R7年度第2回学校運営協議会で提案された「地域・学校合同の避難訓練」と、今年度の教職員合同研修会で協議された「中学生が気軽にできるボランティアの実践の場」をテーマとし、小グループに分かれて協議した。このテーマについては、次回運営協議会も継続して協議を行う。	
	(1) ①学校の避難訓練と地域の避難訓練の現状と、学校と地域が合同で避難訓練を行う意義	・町の地域連携避難訓練は、毎年土曜日。大人が平日参加できないためかもしれないが、実際平日に発災した場合、大人はそこにいない。その状況の中で中学生の力が必要になる。
	②学校と地域の合同避難訓練を想定して、どんな訓練ができるか	・消防署指導のもと、担架の作り方や瓦礫からの救出の仕方、ダンボールベットや簡易トイレの組み立て、アルファ米の炊き出しなど。 ・小学生も中学生も、自分の学校が避難所と思っている子供が多いのではないか。実際に自分が避難する避難所を知ること、行ってみることも訓練として大事。 ・ゆくゆくは、中学生が地域に点在する避難が困難な住民を助けて誘導するといった訓練もできると良い。
	③学校と地域の合同避難訓練に向けて考えられる障壁、次回への課題	・学校の年間計画での位置づけ。平日での実施または土曜公開日での実施が可能かどうか、確認する。 ・小学校、中学校と同時に実施するのであれば、小中一貫事業のひとつに位置づけることも考えられる。 ・町の地域連携避難訓練も平日で可能かどうか。初めは町の訓練に合わせて土曜開催を軸に考えた方がよいかもしれない。 ・費用の問題(訓練で非常食などを使用する場合など)を考える必要がある。
	(2) ①ボランティアの定義(ねらい)	・「協同体」への意識や「協調性」を育てたい。実生活で家族や友人の手助けから、困っている人がいたら声をかけるなどの行動が、ボランティアの原動力となる ・人との関わりや交流に参加することもまたボランティアといえる。自主的にやってみたいという思いが大事。 ・ボランティアによる成功体験を目に見える形にしておきたい。動機づくりという点でも、証明書等を検討したい。 ・異年齢間で交流をさせたい。
	②ボランティアの場の設定と次回への課題	・地域からのニーズと子供たちの「やってみたい」のニーズをマッチングさせることが重要 ・ボランティアを実際に始める前に、生徒と直接接する場を設けたい。主催者の熱意を子供たちが直接受け取ることができる。 ・スタートを切る上での地域へのアナウンスをどうするか。中学生にボランティアをさせるのに適切でない者もいる。 ・「地域を愛する活動」に参加させたい ・主催者と学校がWin-Winとなるよう進めなくてはならない。
配布資料	(1)三芳東中学校運営協議会令和8年度第2回資料 (2)校長室だより(一部抜粋)	